

## 第6回 高洲・高浜地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成21年2月2日(月) 10時00分～12時00分

2 場 所 高洲コミュニティセンター 講習室2

### 3 出席者

#### (1) 委 員

\*欠席委員：徳留委員、安達委員、花見委員、比護委員

\*代理出席：大島委員の代理として鳥居氏(高浜中学校保護者会副会長)が出席

(2) 事務局 山崎課長、古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 14名

### 4 議題

(1) 高洲・高浜地区の適正配置の方向性について

(2) 次回開催日時・場所について

### 5 会議資料

(1) 資料1 高洲・高浜地区の適正配置【参考シミュレーション】

(2) 資料2 高洲・高浜地区学区図

(3) 資料3 今年度推計による高洲・高浜地区の小・中学校の状況について

(4) 資料4 学校の適正規模について

(5) 参考資料 旧花見川第五小の跡地利用(平成21年1月27日付千葉日報記事)

### 6 議事の概要

#### (1) 高洲・高浜地区の適正配置の方向性について

高洲・高浜地区の適正配置の方向性について、協議が行われ、高洲・高浜地区としては、中学校の統合はひとまず継続審議とし、小学校の適正配置の方向性はシミュレーション3(高洲第一小と高洲第二小、高洲第三小、高浜第一小、高浜第二小と高浜第三小)とすることが決定した。

#### (2) 次回開催日時・場所

平成21年3月2日(月) 午前10時から12時、高洲コミュニティセンター講習室2にて開催することとした。

## 7 発言要旨

### (1) 高洲・高浜地区の適正配置の方向性について

〈議長〉

前回は、事務局に論点をまとめていただいたところで時間が来てしまい、協議ができなかった。協議に先立ち、事務局に再度、論点を整理していただきたい。

〈事務局〉

#### 1 小学校について

- ・小規模な状況が続くと予想される、高洲第一小・高洲第二小・高浜第二小・高浜第三小は、まず、適正化を図るべき学校である。
- ・「シミュレーション1」（高洲第三小、高洲第一小+高洲第二小、高浜第一小+高浜第二小+高浜第三小）と、「シミュレーション2」（高洲第一小+高洲第三小、高洲第二小+高浜第一小、高浜第二小+高浜第三小）は、「小学校6校を3校にする」という方向性に基づいたものである。
- ・「シミュレーション3」は、小規模な状態が続くと予想される、高洲第一小+高洲第二小、高浜第二小+高浜第三小の統合を優先的に考え、平成26年度に適正規模と見込まれる高洲第三小と高浜第一小は、そのままとしたものである。結果的に、高洲地区は高洲地区での、高浜地区は高浜地区での統合となる。
- ・仮に、高浜第二小と高浜第三小を統合すると、統合校の中学校区は高浜中学校区になるが、現在の高浜第二小学校区は磯辺第二中学校区なので、通学区域の変更を伴うことを考慮し、統合時の高浜第二小学校区内の在校生は磯辺地区の統合中学校も選択できることとする。また、それよりも下の子どもたちに対しても、個別に柔軟な対応をとる。

#### 2 中学校について

- ・平成26年度までは、高洲第一中は適正規模と予想される。高浜中は、8～9学級と予想され、免許外の教員が必要かどうかの境目の規模である。
- ・中学校を統合した場合、平成26年度には19～20学級の学校になり、1学年7学級程度の若干大きな規模になると予想される。
- ・仮に、中学校の統合はしばらく継続審議とし「シミュレーション3」を採用した場合、高洲地区で中学校1校に小学校2校、高浜地区で中学校1校に小学校2校の、いわゆる「1中2小」という状況が生まれる。中学校で新たな人間関係が生まれる、自然な形である。

〈議長〉

「実施方針」に示されている適正配置の方向性は、「小学校6校を3校に、中学校2校を1校に」するものであるが、もし、中学校の統合はしばらく継続審議とし、「シミュレーション3」を採用した場合、「まずは小学校6校を4校にし、中学校は2校のまま」という方向性も考えられる。事務局からの説明を参考に、意見交換をお願いする。

〈委員〉

高浜3丁目だが、仮に、高浜第二小全体が磯辺地区の小学校と統合すると、シミュレーションの児童数が大幅に変わるだろう。磯辺地区の適正配置の方向性もまだ定まっていない中で、事務局はこのような場合を想定しているのか。

〈事務局〉

ここは高洲・高浜地区の協議会なので、高洲・高浜地区として一番ふさわしい方向性を考えていただきたい。磯辺地区は磯辺地区として、一番よい方向性を考えている。高浜第二小には、高洲・高浜地区と磯辺地区との両協議会の方向性を踏まえて考えていただくことになる。

〈委員〉

「保護者と住民とで考える」ということだろうが、高浜第二小が磯辺地区の小学校と統合すると、このシミュレーション自体が成り立たなくなるのではないかと心配している。

〈事務局〉

事務局が考える高洲・高浜地区の方向性としてシミュレーションを示しているが、高浜第二小が磯辺地区の小学校と統合すると、高浜第三小だけが小規模校のまま残ってしまうことになるので、それは避けたいと考えている。このようなことを考慮して、高洲・高浜地区として望ましい適正配置の方向性について議論していただきたい。

〈議長〉

高洲・高浜地区としての方向性について考えていきたい。初めに、高浜第二小はどのように考えているのかを教えていただきたい。

〈委員〉

高浜第二小は磯辺地区の協議会にも参加しているが、学校（保護者）としての意見を決めなければならない時期が来たと思っている。今までも保護者に説明はしてきたが、保護者の意見を集約する必要があるので、説明会を開催する予定である。现阶段では、まだ高浜第二小としての意見を言える状況ではないことを理解していただきたい。高浜第二小は、小学校は高浜地区、中学校は磯辺地区と学区がまたがっており、なかなか協議が進まない状況になってしまっていることはわかるが、今回の協議会の内容を含め、一度学校に持ち帰り保護者に説明し、保護者と協議した結果を、またここに持ってきてほしい。

保護者の選択肢の一つとして、委員の皆さんが考える、高浜第二小を含めた高洲・高浜地区のあるべき姿はどのようなものか、教えていただきたい。

〈委員〉

直接関係はないが、前回の議事録で、外国人の方に関する意見のうち委員の要望で削除した部分があることについて、外国人問題は高洲・高浜地区にとって本質的で重要な問題だと思うので、議事録に残すか残さないかを、今一度話し合う必要があると思う。また、削除した部分があるために、完成した議事録を読むと話の流れがわからないところがあるが、議事録に残したくない委員もいるだろうし、どうしたらよいのだろうか。

〈事務局〉

前回の協議会で、議事録に載せないでほしいという要望があった発言については、議事録には掲載しなかったし、わからない部分については委員の皆さんに確認していただいた。

外国人の方の問題は、適正配置とは分けて考えていかなければならない問題である。教育委員会としては、外国人の子どもたちが多い学校については、日本語指導教員の配置やボランティアの方の協力を仰いだり、学校の文書を外国語に直したりして対応している。なぜ外国人の方が多いのかを市の関係課に聞いたところ、市営住宅の募集をすると、応募者が少ない上層階の部屋に外国人の方は応募するため、入居しやすいということだった。教育委員会としても、外国人の多い地区の学校に対しては、手厚く対応しているし、今後もしていきたいと考えている。

〈委員〉

高浜第一小の中国人の子ども割合を事務局は知っているか。

〈事務局〉

大体、全体の2～3割と聞いている。

〈委員〉

高浜第一小には日本語指導教員が1名配置されているが、先生方が手を焼いているのも現実で、小さいざこざがあることも聞いている。外国人だからといって偏見を持つつもりはないが、千葉市全体で外国人市民登録をしている中国人が、9, 120人いるうち、美浜区に4, 214人おり、次いで、中央区に1, 758人、稲毛区に1, 269人いる。そして、美浜区の中でも、高浜第一小と高浜第三小の子どもたちが通う高浜中の学区内にある市営住宅と県営住宅に中国人が集中している。日本人の保護者の中には、そのように外国人の多い高浜中の教育環境は良くないだろうと考え、自分の子どもを私立や高洲地区の中学校に通学させている方もいる。喉元に刺さった刺のように、高洲・高浜地区の本質的な問題は外国人が多いことにあるだろう。このことを別問題にしてしまっただけでは、適正配置の方向性を決めることはできないのではないかと。やはり外国の方は、文化や習慣が異なる。例えば、ベランダから放尿している大人がいるのを見たことがあり、子どもも真似をする。また、これは先生の質の問題であると思うが、帰化しているにも関わらず、中学生の子どもが先生に、「お前は外国人だ」と言われて泣いて帰って来たという話を、外国人の保護者から聞いたこともある。外国人への偏見ではなく、現実の話としてこういったことがある。このことに目をそむけていては、統合はまとまらないのではないかと。

〈委員〉

私は市営住宅に住んでいるが、部屋が空いても日本人は入居を断られ、中国の方はどんどん入ってくると聞く。協議会の委員の多くは適正配置に反対ではないのに統合の話がなかなか進まないのは、高浜地区に外国人が多いという問題が現実にあるからだろう。市の住宅管理課にも話を聞いたが、人が出ていっても荷物が全てなくなると「空き部屋」とはしないため、(空き部屋が多いように見えても) 空き部屋はないということだった。な

ぜ中国人の入居者が多いのか聞いたところ、応募者数に占める中国人の割合が多いという理由だった。中国の方が多く住んでいると、そこに住むことを遠慮する人もおり、ますます外国の方が多くなっている。特に高浜地区はそうである。外国人が増えている問題と、適正配置の問題は併せて考えていかないといけないのではないか。外国の住民が増えていくことについては、法律的な問題になるとよくわからないし、難しい問題だろう。

〈委員〉

中学3年生の中国人のお子さんが転入してきたのだが、日本語が全くわからなかったので、急遽ボランティアを配置したということがある。なぜ、高浜地区に中国の方が増えてしまったのかを整理していかないと、適正配置はまともらないのではないか。

〈委員〉

子ども同士は、国籍に関係なく仲良く遊んでいる。高浜第三小は外国人の子どもの人数も多くないし、役員を務めている保護者もいるので、特に問題にはなっていない。

〈委員〉

いま、高浜地区の学校の状況を伺ったので、高洲地区の状況も伺いたい。

〈委員〉

保護者は、やはり高洲地区の学校と統合したいという意見である。保護者会役員会や保護者へ「シミュレーション1、2、3のどれがよいか」聞いてみたところ、「シミュレーション1」に賛成する保護者が多い。保護者の多くは、統合したほうがよいと思っており、そのほとんどが、「シミュレーション1」を支持している。また、少数ではあるが、「シミュレーション1」では高浜地区の学区が広くなりすぎることを理由として、「シミュレーション3」を支持する意見もある。どちらにしても、「高洲第一小と統合したい」という保護者がほとんどである。高浜地区の学校とは、子ども同士の交流はあるが、学校単位での交流はないし、よくない噂も耳に入るので、高浜地区の学校と統合することに対しては、親は非常に不安がある。統合するのであれば、高洲第一小と統合するシミュレーションの方向性がよい。

〈委員〉

保護者の半数は、高洲地区と高浜地区とで分かれて適正配置をすることに賛成である。高洲第一小は小規模校なので、芸術鑑賞会や球技大会等を高洲第二小と合同で行っており、高洲地区の学校同士の交流があるので、高洲地区は高洲地区で統合することは自然な方向性だと思う。以前から、高洲第一小と高洲第二小は統合するのではないか、という噂があるようで、保護者の間では、統合校はどちらの学校の位置になるのか、という話が出ている程である。

〈委員〉

高洲第三小は、現在も今後も適正規模であり、中学校も適正規模の高洲第一中に進学するので、保護者は統合せずに現状のまま残るだろうと考えている。高洲第一小と高洲第二小が統合することについては、違和感はなく、そうなるのだろうと思っている。高浜地区との統合は、学校同士の交流もないので、積極的に賛成する理由はないと思う。

〈議長〉

委員の一人として意見を言わせていただくと、高洲地区と高浜地区とで分かれて統合するという方向性がよいと思う。先生方は高洲地区と高浜地区との連絡会等で話し合いもしているが、保護者や住民は、高浜第二小は磯辺二中学校区のため高浜地区では活動していないという状況もあり、先が見えにくいと思う。

議長に戻る。「実施方針」は、「統合後の小学校を3校に、中学校を1校に」という方向性を示しているが、これまでの委員の皆さんの意見や現状を踏まえると、高洲・高浜地区においては、「小学校を4校に、中学校はひとまず2校のまま」という方向性もあるだろう。例えば、そのような方向性で統合が行われた場合、市としては、教員の配置等について、どのような対応をしていただけるのか。仮に「シミュレーション3」の統合が行われた場合を例にして、説明していただきたい。

〈事務局〉

統合して学校の規模が大きくなるのが子どもたちにとってのよりよい教育環境につながるということについては、ご理解いただけていると思う。しかし、統合後、1学級当たりの子どもの数が増えることについて心配されていると思うので、統合後の教育環境、特に教員の加配がどのように配慮されるのか、説明させていただく。「統合して学級が増えることはメリットだが、学級の人数が急に増えることは不安だ」という意見もあったように、統合後当分の間は、現行の千葉市の教員配置基準に上乘せする形で、少人数学習指導教員の加配について、何らかの対応をしていく必要があると考えている。

現在、市の少人数学習指導教員の配置基準は、小学校1～3学年で36人の学級の生じた学年に一人配置するというものである。そこで、千葉市の小学校の1学級の平均人数である31人を一つの基準として、小学校が統合したときに、31人以上の学級が生じた学年については、少人数学習指導教員を一人配置していきたいと考えている。例えば、「参考統合シミュレーション1」の高洲第一小と高洲第二小の統合校では、全ての学年が31人以上となる。現行の配置基準では加配教員が配置されない全ての学年に、市の少人数学習指導教員が1名配置されることになる。これとは別に、もし問題のある学校があった場合は、個別に教員を多く配置するなどして対応していく。これは、現在でも対応していることである。

また、通学路の安全性についても不安があると思うが、統合校へはスクールガードアドバイザーを専属で配置していきたいと考えている。校舎の改修については花島小と同じように大規模改修を行いたい。

〈委員〉

少人数学習指導教員は、31人以上の学級がある全ての学年に配置されるのか。また、毎日学校にいるのか。

〈事務局〉

31人以上の学級のある全ての学年に対して、1名の少人数学習指導教員を配置する。これは非常勤の教員なので、勤務時間が決められており時間外の対応はできないが、ほぼ毎日学校におり、学校に子どもがいる時間には常時いる。現在配置している少人数学習指導教員と同じと考えていただきたい。

〈委員〉

統合により、特別支援学級の子どもたちが通学する学校が変わった場合、どのような配慮をしていただけるのかを教えてください。

〈事務局〉

特別支援学級の有無に関係なく、統合校へは、今は中学校だけに配置しているスクールカウンセラーを配置する。また、統合した中学校は生徒指導への配慮が必要と考えるので、1校あたり2名の非常勤教員の加配を考えている。

〈委員〉

31名以上の学級がある学年に1名の非常勤教員の加配があるということだが、仮に「シミュレーション3」の統合が行われて、高洲第三小がそのまま残った場合、高洲第三小への加配はあるのか。

〈事務局〉

加配教員の考え方は、統合による環境変化の緩和に対する措置であり、統合校に対しての配置になるので、統合せずそのまま残る学校に対しては、加配はない。

〈委員〉

統合による加配教員の配置期間は、何年間か決まっているのか。

〈事務局〉

統合時に在学している子どもたちが慣れるまでの間、統合後おおよそ3年間を考えている。

〈委員〉

保護者が心配していることは、子どもの人数が増えることにより、教育環境等に影響が出るのではないかと、ということである。統合という新しい仕組みを作るのであれば、現行の基準に上乗せしていくやり方ではなく、新しい基準を作ることはできないのか。千葉市の平成20年度予算に占める教育費の割合は、前年度比で27.3%減っており、今後さらに減るのではないかと心配だし、このように教育予算が減っていっている中で、よりよい教育ができるのだろうか。統合による教員の加配は3年間だけで、その先はわからないし、高浜地区は中国の方が今後もっと多くなるのではないかとといった不安がある。自治会で適正配置の説明をすると、住民からこのようなことを言われる。

〈事務局〉

中国人の方が増えていることについては、地域の方々には重要な問題ではあるが、それが解決できないから適正配置の話し合いができない、とはしたくない。その問題については、適正配置の話し合いとは別の機会を設けていただきたい。

予算は、毎年変動するものであり、また、前年度比だけを見て減っているとは言い切れない。例えば、平成20年度予算が前年度比で減少している理由の一つとして、前年度に科学館の大規模事業を実施し予算が多かったということがある。このように予算はその年度の大規模な事業によって増減がある。また、全体の予算の中で教育費の割合は、政令市の中では高い位置にあり、千葉市は教育に力を入れていると言えるだろう。

教員の配置基準自体を変えられないかということだが、教員は県費負担教員であり、全県的に同じ基準で配置されており、特別にどこかが手厚く配置してもらうことは無理である。したがって、統合校へは、市が配置できる少人数学習指導教員を、従来の配置基準である36人を下回る基準である31人学級のある学年に1名配置していくということである。これは相当な配慮であり、関係各所管と交渉した結果であるので、ご理解いただきたい。子どもたちの教育環境をよりよくするためにはどうしたらよいかという視点で議論していきたい。少なくとも、クラス替えができるだけの人数の子どもたちがいて、学校当たりの教員の数が多いほうがよい教育環境と考える。高洲・高浜地区の地域性の問題として外国人が増えていることがあるかもしれないが、今後高浜地区に中国人の方がどれくらい増えるのかということは、教育委員会としてはわからない。住宅関係の課にも話を聞きに行ったが、先ほどの委員の時と同様の答えであった。中国人の方を優先的に入居させているわけではなく、当たりやすい階に応募するためではないかと聞いた。教育委員会としては、日本語指導教員を配置し、個別に対応している。子どもたちにとって今のままの学校規模でよいのか、高洲・高浜地区の子どもたちにとって一番よい方向性について話し合っていたきたい。

保護者の方たちには、子どもたち同士は国籍に関係なく仲良くしているし、よりよい教育環境として、ある程度の規模が必要だということは理解していただいていると思う。中学校のシミュレーションだが、仮に高浜中に高浜第二小の子どもたちが入学してくれば、学級数が増え、配置される教員が増えるだろう。地域性の問題もあるだろうが、教員が多ければ学校は変わるので、よりよい教育環境にしていくことを考えたい。高浜第三小の平成26年度の教員数は7名と予想されるが、仮に高浜第二小と統合すれば、教員は14名になる。これは子どもにとっても教員にとっても効果が大きいだろう。

〈議長〉

今までの話し合いから、小学校の方向性については、参考統合シミュレーションのうち、1か3がよいと考えている方が多いと思う。高浜地区は「シミュレーション1」では統合校が大きくなってしまいますので、「シミュレーション3」の方がよいのではないかと。高洲地区は、シミュレーションの1でも3でも、高洲第三小と高洲第一小・高洲第二小になるので、まとめると、「シミュレーション3」の方向性がよいのではないかと。中学校の統合については、しばらく継続して協議したほうがよいと思う。会長のお考えを伺いたい。

〈会長〉

「シミュレーション3」にし、結果として高洲地区は高洲地区で、高浜地区は高浜地区で小学校を統合し、それぞれの地区で小学校2校、中学校1校となる方向性がよいと思う。事務局はそれでよろしいか。

〈事務局〉

その方向性で進めさせていただければありがたい。

〈委員〉

高浜第二小は、現在磯辺第二中学校区であるが、「シミュレーション3」の方向性ということは、高浜中への学区変更というよりも、高浜第二小学校区は高浜地区になるということになると思う。現在、小学校は高浜地区、中学校は磯辺地区と、学区がねじれた状態にある。統合にあたり、高浜第二小の学区が分かれることも考え得るが、中学校区や高浜第二小としてのまとまりを分けることの是非については、今、保護者や地域で考えているところである。今日の協議の内容を学校に持ち帰り「シミュレーション3」の方向性が協議会の意思ということを保護者に示すが、保護者の意見を聞いた結果、違う意見になる場合もあるかもしれない。今の時点で高浜第二小としての意思は伝えられないので、次回協議会まで待っていただきたい。

〈議長〉

高浜第二小の意見を待つことでよいか。

〈委員〉

高洲・高浜地区としての方向性はまとまったが、もし高浜第二小が磯辺地区の小学校と統合したい、という意見になったときはどうするのか。磯辺地区の方と話したところ、(磯辺地区は磯辺地区として望ましい方向性を話し合っていくので、)高洲・高浜地区は高洲・高浜地区として話し合えばよいのではないかと、と言われた。保護者の意向も大事だが、地域の意向も大事なので、(この高洲・高浜地区として望ましい方向性を)地域として話し合っただけでまとめていきたい。

〈事務局〉

磯辺地区では、磯辺地区にとって望ましい方向性を考えていただいている。高浜第二小だけの問題とせず、高洲・高浜地区にとって望ましい方向性を考えていただきたい。高浜第二小は協議会からの意見を聞きたいと言っているし、本日の高洲・高浜地区としての意向は、受け止めていただけたと思う。次回は、高浜第二小とその学区の自治会の意見を待って、話し合いをしていただければと思う。

〈委員〉

高洲地区と高浜地区の現状として、地区の交流はないので、それぞれの地区での統合になる方向性はよいと思うが、高浜第二小をどうするかまとめないと、よりよい統合にはならないのではないか。

〈事務局〉

高洲・高浜地区としては、「シミュレーション3」がよいだろうという方向性になっているので、あとは磯辺地区との絡みがある部分についてどうするのかだと思う。磯辺地区では、「磯辺第三小を残し、磯辺第一小・第二小・第四小で統合する」という方向で話を進めていくことになっている。高浜第二小は、両方の協議会に参加しており、それぞれの状況を踏まえて考えていくことになっている。

〈委員〉

高浜第二小と高浜第三小の統合校に高浜6丁目を含まないと、1学年1学級になる可能性があるし、高浜第二小が磯辺地区の小学校と統合すると、高浜第三小だけが小さいまま残ることになってしまうという不安がある。高浜第三小では、「シミュレーション3」の高浜第二小との統合に賛成の保護者は多い。

〈事務局〉

今の高浜第三小の意見も含めて、高浜第二小の中での話し合いが必要である。現時点では「シミュレーション3」がよいのではないかという方向になっていると思う。高浜第二小は、高浜第三小の意見も踏まえて検討していただきたい。